

2026 年 8 月 12 日

株式会社 CAICA DIGITAL
代表取締役社長 鈴木 伸
(コード番号: 2315 東証スタンダード)
問合せ先:
代表取締役副社長 山口 健治
TEL 03-5657-3000 (代表)

AI 駆動型開発サービスを COBOL 資産のモダナイゼーションへ拡大 ～システム開発 50 年の知見と生成 AI を融合し、レガシーシステム刷新を加速～

本日、当社子会社である株式会社CAICAテクノロジーズ（本社：東京都港区、代表取締役：鈴木 伸）が、下記プレスリリースを行いましたので、お知らせいたします。

(添付)

別紙

「AI 駆動型開発サービスを COBOL 資産のモダナイゼーションへ拡大 ～システム開発 50 年の知見と生成 AI を融合し、レガシーシステム刷新を加速～」

(2026 年 8 月 12 日付の株式会社 CAICA テクノロジーズのプレスリリース)

以 上

本件に関するお問い合わせ

株式会社 CAICA テクノロジーズ 営業部

メール : info-sales@caica.jp

2026 年 8 月 12 日

株式会社 CAICA テクノロジーズ
問い合わせ先：営業部
TEL：03-5657-3010
メール：info-sales@caica.jp

AI 駆動型開発サービスを COBOL 資産のモダナイゼーションへ拡大 ～システム開発 50 年の知見と生成 AI を融合し、レガシーシステム刷新を加速～

3つの強みの融合が、確かな価値を生み出します



株式会社 CAICA テクノロジーズ（本社：東京都港区、代表取締役社長：鈴木 伸、以下「CAICA テクノロジーズ」）は、2026 年 4 月 30 日に提供開始を公表した「AI 駆動型開発（AI Driven Development）」サービスの対象領域を拡大し、COBOL を中心とするレガシーシステムの解析・設計・モダナイゼーション支援に本格適用することといたしましたので、お知らせいたします。

現在、多くの金融機関、公共・官公庁、大企業の基幹システムでは COBOL をはじめとするレガシー技術が利用されています。一方で、システムのブラックボックス化、ドキュメント不足、技術者不足、改修時の影響範囲把握の困難化などが大きな経営課題となっています。

CAICA テクノロジーズは、システム開発 50 年にわたり培った COBOL 開発・保守の知見と、経験豊富な技術者による高度な業務理解を強みに、生成 AI を活用した AI 駆動型開発を融合。AI エージェントによる高速な解析・設計と、人による専門的なレビューを組み合わせることで、既存システムの構造解析、業務仕様の可視化、設計書生成、影響範囲分析、改修支援、テスト支援までを一気通貫で提供します。また、既に複数の顧客案件において AI 駆動型開発を活用した COBOL 資産の解析および設計支援を開始しており、今後はモダナイゼーション案件への適用を拡大してまいります。

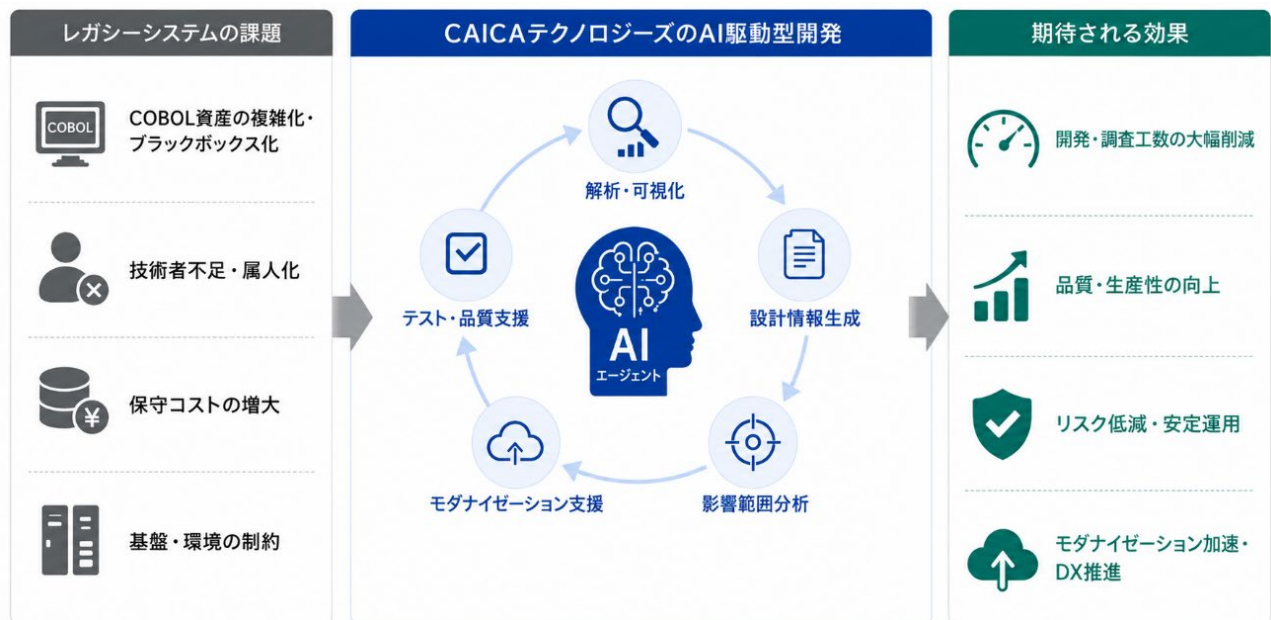
1. 背景

企業の基幹業務を支える COBOL システムは、現在も金融機関、公共・官公庁、製造業、流通業など幅広い分野で利用されています。しかしながら、長期間にわたる機能追加や制度対応によりシステム構造が複雑化し、業務ロジックや設計思想を理解できる技術者の減少が進んでいます。

加えて、国内ではメインフレーム環境のサポート終了や維持コストの増加が見込まれており、多くの企業においてシステム刷新やモダナイゼーションへの取り組みが加速しています。

こうした状況の中、既存システムを安全かつ効率的に解析し、業務影響を最小限に抑えながら改修・移行を進めることが重要な経営課題となっています。

CAICA テクノロジーズは、これまで金融機関、公共・官公庁、ポイント・決済、EC・通販等の幅広い領域において基幹システム開発・運用保守を手掛けてきました。今回、同社の業務知見と生成 AI 技術を融合することで、レガシーシステムの可視化とモダナイゼーションを支援する新たなサービス展開を推進してまいります。



2. サービスの概要

本サービスでは、AI エージェントを活用し、COBOL を中心とする既存システムに対して以下の支援を行います。

(1) 既存資産の構造解析

ソースコード、設計書、ジョブ定義、データ定義書、運用資料等を解析し、システム構造や処理フロー、データ連携関係を可視化します。

これにより、ブラックボックス化したシステム全体像を把握し、属人化の解消を支援します。

(2) 業務仕様・設計情報のドキュメント化

AI が既存プログラムの処理内容を解析し、業務仕様書、設計書、処理フロー、改修時の留意点などを自動生成します。

さらに、COBOL システムの開発・保守に豊富な経験を有する技術者がレビューを行うことで、AI だけでは判断が難しい業務ロジックや運用ノウハウまで反映した、高品質かつ実践的なドキュメント整備を実現します。

（３）改修・保守における影響範囲分析

制度対応、機能追加、障害対応などにおいて、改修対象および関連するプログラムやデータへの影響範囲を事前に分析します。

これにより、手戻りや障害発生リスクの低減を図ります。

（４）モダナイゼーション支援

既存システムの業務重要度、技術的負債、依存関係等を分析し、段階的なモダナイゼーション計画の策定を支援します。

必要に応じて API 化、クラウド移行、オープン環境への移行などを支援し、企業の DX 推進を後押しします。

（５）テスト・品質向上支援

AI を活用したテストケース生成、レビュー支援、品質分析を行い、システム改修時の品質向上と工数削減を実現します。

３．CAICA テクノロジーズの強み

CAICA テクノロジーズの最大の強みは、「AI 駆動型開発」「システム開発 50 年で培った COBOL 開発・保守の実績」「経験豊富な技術者によるレビュー」の 3 つを融合したサービスを提供できることです。近年、生成 AI を活用したシステム開発サービスは増えていますが、AI のみでは業務特有のロジックや長年運用されてきたシステムの背景まで十分に理解することは容易ではありません。

CAICA テクノロジーズは、システム開発 50 年の実績を有し、金融機関、公共・官公庁、ポイント・決済、EC・通販等の領域において、企画、設計、構築、運用・保守まで幅広く対応してまいりました。本サービスでは、単に生成 AI ツールを活用するのではなく、長年蓄積してきた業務知見やシステム開発ノウハウを AI エージェントに組み込み、AI が出力した解析結果や設計情報を経験豊富なエンジニアがレビューすることで、高い品質と実効性を担保します。

AI の高速処理能力と、人が培ってきた COBOL 開発ノウハウを融合することで、安全性・品質・開発スピードを兼ね備えたモダナイゼーションを実現できることが、CAICA テクノロジーズならではの強みです。

また、同社が推進するモダナイゼーション関連ソリューションとの連携を通じて、既存資産の調査・分析から将来的なシステム刷新まで一貫して支援できる体制を構築しております。

４．今後の展開

CAICA テクノロジーズは、AI 駆動型開発を単なる開発効率化の手段ではなく、企業の既存 IT 資産を再評価し、DX 推進やシステム刷新を支える戦略基盤と位置付けています。

今後も、「AI 駆動型開発」「システム開発 50 年で培った COBOL 開発・保守の実績」「経験豊富な技術者」の 3 つの強みを融合し、企業のレガシーシステム刷新を支援してまいります。

今後は、COBOL を中心とするレガシーシステムの解析・設計支援に加え、モダナイゼーション案件への適用を拡大し、開発スピード、品質、保守性を兼ね備えた総合的なシステム開発サービスとして展開してまいります。

また、既に進行中の顧客案件における活用実績を蓄積しながら、金融機関、公共・官公庁、製造業などレガシーシステムを保有する幅広い業界への展開を進めてまいります。

なお、本件が株式会社 CAICA DIGITAL の連結業績に与える影響につきましては、現時点では軽微であると見込んでおります。今後、公表すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以 上